



## 6月号 根茎腐敗病対策について

こんにちは、高南農業改良普及所です。例年、根茎腐敗病が発生し始める時期になりました。昨年に発生が確認されたほ場は特に注意し、予防を始めましょう。

### 1. 前年度の根茎腐敗病が、無～少発生だったほ場の場合

時期	6月下旬までの処理	7月～9月
防除方法	殺菌剤の 予防的処理  ユニフォーム 粒剤(1回、 18kg/10a)	【今年度発病がない場合】 追加の殺菌剤は不要
		【今年度発病が確認された場合】 周辺の株ごと速やかに除去し、殺菌剤を処理する
		【大雨などで浸冠水の恐れがある場合】 <u>浸冠水前または浸冠水後</u> 、できるだけ速やかに殺菌剤を処理する

### 2. 前年度の根茎腐敗病が、中～多発生だったほ場の場合

時期	6月下旬までの処理	7月～9月
防除方法	殺菌剤の 予防的処理  ユニフォーム 粒剤(1回、 18kg/10a)	20～30日ごとに、予防的に殺菌剤のローテーション処理を実施 【ローテーション処理実施例】 ランマン ユニフォーム ランマン フロアブル → 粒剤 → フロアブル
		【大雨などで浸冠水の恐れがある場合】 ローテーション処理に加え、 <u>浸冠水前または浸冠水後</u> 、できるだけ速やかに殺菌剤を処理する

### 防除のポイント！

- ☑ 殺菌剤は 予防的に使用した方が効果が高い！ 特に既発ほ場は、病原菌感染前(発病前)の予防的な薬剤処理を心がけましょう。
- ☑ 発病株は直ちに抜き取り、その周囲の1～2株も除去しましょう。持ち出す際、発病株に付着した土壌が拡散しないように注意。
- ☑ 発病した株の周囲だけでなく、ほ場全体に処理した方が防除効果が高いので、余裕がある場合は全面散布しましょう。

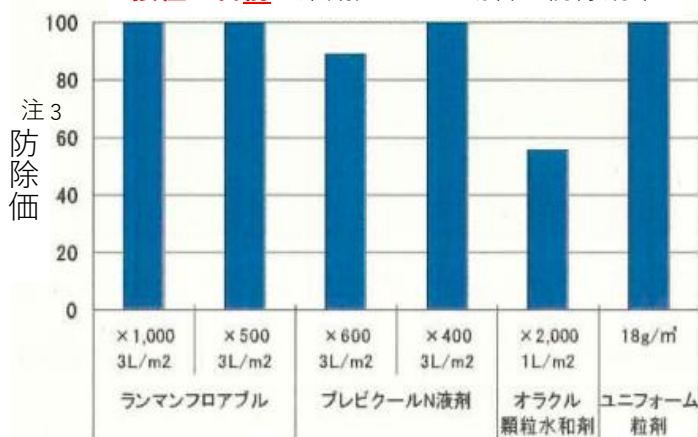
裏へ⇒

# < 参考データ >

## 生育期間中の殺菌剤の処理時期と根茎腐敗病に対する防除効果

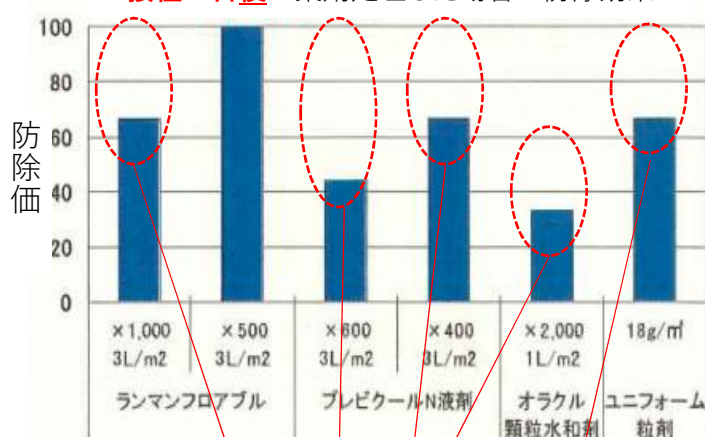
### ① 予防的な処理<sup>注1</sup>

接種7日前に薬剤処理した場合の防除効果



### ② 治療的な処理<sup>注2</sup>

接種3日後に薬剤処理した場合の防除効果



予防的に処理した場合と比較すると防除効果が低い！

注1 予防的な処理：病原菌に感染する前に薬剤を散布

注2 治療的な処理：病原菌に感染した後に薬剤を散布

注3 防除価：数値が大きいほど防除効果が高い

## ランマンフロアブルのほ場全面処理と部分処理の防除効果の比較



薬剤を全面処理した方が、根茎腐敗病発病株率が低く推移している

注) 全面処理区の発病は7月29日から、部分処理区の発病は8月12日から認められ、それぞれその日から防除を開始した。

なお、無処理区は土壤消毒なし、その他の区はダゾメット粉粒剤(30kg/10a)とクロルピクリン錠剤の併用処理を実施した。

※「高知県の露地ショウガ産地のための脱臭化メチル栽培マニュアル」平成26年12月24日一部改訂より

根茎腐敗病対策は予防と、発病株の早期発見が大切です。

管理中やほ場の見回り中に「これって根茎腐敗病かも？」という株を発見した場合は、普及所までお問い合わせください！